

# 幅はぎ材の輸入量明確に

## フリー板等の需給動向見極め可能

造作用集成材の一種であるフリー板(ぼん)などが該当する幅はぎ材の産地別輸入量が、今年1月の統計から出てくる。フリー板のみの抽出は無理だが、これからは同材を含む幅はぎ材の需給動向が把握できることになる。業界の要望を財務省が受け入れたかたちで、幅はぎ材以外にも竹製割の箸が新たに設定された。

その業界要望が本格化したのは、平成15年10月に幅はぎ材の関税分類が変更となつてから。それまでフリー板は「製材」や「加工材」で通関されたが、国際分類例規の変更から「その他の木材」として輸入が統計上で激減した。これを受けて、南洋木材利用課貿易対策室は縦継ぎの類似品として「製材」や「加工材」で通関されたが、これを受けて、南洋木材輸入協会が林野庁へ実情を伝え、昨年9月の

月から買対室が粘り強く財務省と折衝。「その他の木材」のみで年間輸入量が650億円にのぼり、その細分化が必要という切り口から打開したという。

輸入協会が

集計した南方産幅はぎ材の今年1月の輸入量は別表のとおり。い

幅はぎ材の産地別輸入量 単位：㎡

	15年1月	20年1月		計	5年剪比
		製材・加工材	フリー板等※		
中国	14,669	9,396	13,212	22,608	154.1
インドネシア	31,147	5,566	8,513	14,079	45.2
マレーシア	20,415	14,858	1,352	16,210	79.4
タイ	3,428	438	1,169	1,607	46.9
ベトナム	511	758	537	1,295	253.4
フィリピン	1,122	330	70	400	35.7
台湾	238	293	18	311	130.7
その他	492	819	5	824	167.5
計	72,022	32,458	24,876	57,334	79.6

注：日本木材輸入協会資料より作成、※が新設。

工を施すEJLフローリングや外壁材なども含まれている。中国産は広葉樹フローリングやアカ松フリー板、インドネシアがメルキシ松、タイはゴムのフリー板が中心と見られる。フリー板の主力産地は中国や東南アジアなど労働集約性が高い地域。フリーボードとも言われ、主にフィンカ1ジョイント(FJ)で縦継ぎし、それを幅方向へ接着接合した材

で、厚みよのピッチ幅が大きい形状となる。名前のごとくフリー(自由)に活用できる汎用性が特徴で、主な用途はカウンタートップや階段材、枠材といった造作・建具用となる。以前は、ムク平割がその需要を担っていたが、高い汎用性や狂いにくい、乾燥材であるといったことなどから代替が進んだ。現状は、そのフリー板もMDFやPB基材などの建材類と競合している。